

## 外国語における学習者用デジタル教科書・デジタル教材の活用例

I. 英語を読む学習（音読）

## &lt;デジタル教科書・デジタル教材の主な機能等と活用方法&gt;

英語のネイティブ音声を教科書の紙面に対応させつつ使用する（3.（2）（イ）①）

- ・英語のネイティブ音声を使用して、個々の児童生徒の習熟度に合わせて速度の変更や特定個所の再生を繰り返し行う。（3.（3）.（ウ）①）

## &lt;授業における具体的な活用例&gt;

- 音読練習において、教師による発音練習の後に、学習者用デジタル教科書とデジタル教材であるネイティブ音声を一体的に使用することにより、音声を聞きながら本文を黙読したり、少し遅れて音読（シャドウイング）したりすることで、正確な音声に何回も触れる。また、個々の児童が自分のペースで音声を止めたり、同じ箇所を繰り返し聞いたりすることにより、音のつながりなどに留意しながら練習する。

（参考）関連する新学習指導要領の内容（中学校外国語）

〔知識及び技能〕

(1) ア 音声

(イ) 語と都の連結による音の変化

(ウ) 語や句、文における基本的な強勢

(エ) 文における基本的なイントネーション

(オ) 文における基本的な区切り

## Ⅱ. 文章を書く学習

### <デジタル教科書・デジタル教材の主な機能等と活用方法>

#### 教科書の音声を繰り返し聞き、書きとりを行う（3.（2）（イ）①）

- ・英語のネイティブ音声を使用して、個々の児童生徒の習熟度に合わせて速度の変更や特定個所の再生を繰り返し行う。（3.（3）.（ウ）①）
- ・何度も聞き返しながら書くことによって英語の聞き取りと書きとりの両方の能力を高めることができる。

### <授業における具体的な活用例>

- 学校や家庭において、学習者用デジタル教科書とデジタル教材であるネイティブ音声を一体的に使用することにより、教科書本文の音声を1文ずつ止めながら書き取ることによって、「書く」という個人差の大きな活動において、個々の生徒のペースにあわせて基本的な学習が行える。
- このような学習を家庭において行うことにより、「書く」という比較的時間のかかる活動を家庭でも行うことができ、学校の授業の補強的な役割を担うことができる。

#### （参考）関連する新学習指導要領の内容（中学校外国語）

##### （5）書くこと

- ・正確に書くとは、小学校の外国語科において、大文字と小文字の正しい書き分けや富豪の適切な使用など、「書くこと」に慣れ親しんできたことを踏まえ、文構造や文法事項を正しく用いて正しい語順で文を構成することや、伝えたいことについての情報を正確に捉え、整理したり確認したりしながら書くことをしめしている。

### Ⅲ. 英語を話す活動

#### <デジタル教科書・デジタル教材の主な機能等と活用方法>

##### 教科書の挿絵を連続で流すことにより使いながら英語のリテリングを行う

- ・紙芝居のように挿絵を流すことにより、教科書の本文内容を思い出しながら、英文を言う練習を行うことができる。
- ・個に応じたペースで英語を言う練習を行うことができる。

#### <授業における具体的な活用例>

- 教科書本文に付随した挿絵を順番に画面に流しながら、本文を言うリテリング活動を行う。本文を見ずに、絵をヒントにしながら英語を言うことになるので、話すことの基礎的な練習となる。
- 学校の授業において、十分な音読活動を行った後、教科書本文に関連した挿絵を見ながら、本文を見ずに英語を話す活動を行うリテリングの練習を行う、その後、家庭において同様の挿絵の映像を見ながら授業と同様の活動を復習として行う。

#### (参考) 関連する新学習指導要領の内容（中学校外国語）

学習した語句や表現などに意味のある文脈の中で繰り返し触れることができるようにしながら、さまざま話題についてその場で英語を話すことに慣れていくことが大切である。さらにメモやキーワードを頼りにしながらでも即興で発表すれば、多少の誤りやたどたどしさがあっても当然であるという認識のもとに、生徒が主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を養う必要がある。